

職員が「自己評価を授業改善にどう結びつけるか」の共通な視点で話し合いを深めた。

(3) 基礎学力確認テストの実施

- ア 目的・実施方法 ⇨「研究計画」参照
- イ 実践から

- ・ 3教科とも、単元プランに位置づけられた時間（単元末）に実施した。問題は、生徒の理解度に応じた自作問題とし、単元プランの最後に資料として綴じておくようにした。

結果は余白等に記入することで授業改善に生かすとともに、負担の軽減を図った。

(4) 共同参観授業の実施

- ア 実施期日

- 平成10年 6月16日（火）
3年国語科 菅野 喜絵 教諭
- 平成10年 9月30日（水）
1年数学科 角田 健司 教諭
- 平成10年11月25日（水）
2年英語科 河原 俊 教諭

- イ 実施方法

- ・ 第1年次に準じて行った。
- ・ 1年生の数学科の授業においては、学区内の永戸・沢渡小学校にも呼びかけ、小学校の視点から意見をいただいた。

2 授業以外の実践

(1) 学力向上タイムの実施

第2年次の改善事項～①教科担任中心の指導ができるように、下の表のように教科のローテーションを設定した。

②問題は基礎（下位生徒）、応用（中・上位生徒）の2種類を最低準備し、生徒が自分の能力にあった問題を選択し、取り組めるようにした。

《実施予定日と教科のローテーション》

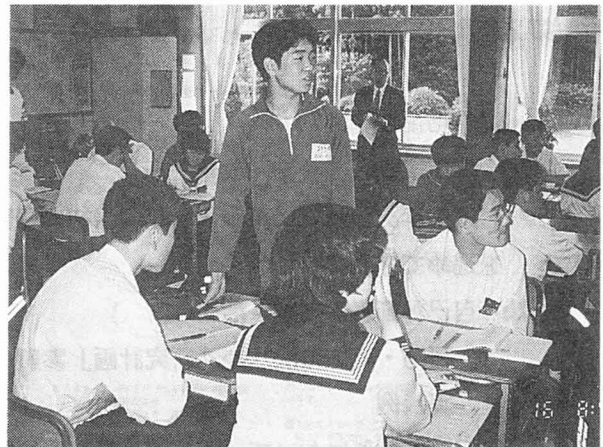
	5/25	6/1	6/9	7/6	7/13	8/31	9/7	9/14	9/21	9/28	10/5
1学年	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学
2学年	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
3学年	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語
	10/19	10/26	11/9	11/16	11/24	11/30	2/8	2/22			合計
1学年	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語			19時間
2学年	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学			
3学年	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語			

《1年数学科共同参観授業の視点集計(一部)》

数 学				
平成10年9月30日（水）1校時	場 所	1の1	指導者	(教諭) 角田 健司
参 観 点 検				
1. 等式の性質を理解させるための手では適切であったか。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項の確認で黒紙だけでなく、掲示紙やOHP用のシートにまで大切な事項を貼付していくアイデアはすばらしい。 ・ 用紙に5つの性質をばらばらポイントを□でかくして目印させた点は良い。 ・ ×や+の記号は使わないでかかと質問した生徒は、かなり学習していると感じた。 ・ 保障をふんで理解させる手だてを工夫しており、適切であったと思う。 ・ 生徒の興味・関心を引き立てるのに効果的であった。 				
2. 学習形態の工夫は適切であったか。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人からグループ、そして個人と最終的には方程式を自分で解くという進め方で適切だったと思う。 ・ てんびんを使い、等式の性質を表す場合、グループのほうが様々な考えを出しやすい。この場合、発表する生徒が1人でも、全員が理解することが大切である。 ・ 発表学習を通して、生徒の表現の場も確保されていた。拍手で賞賛を与えたことも大切である。 ・ $+x-x$すべての項目についててんびんを使った結果から、ふせてある紙を削いでいければと感じた。 ・ 論と相談するのは、生徒が安心して授業に望めていいと思います。2人1組ぐらいがいいと思います。 ・ てんびんの確かめは、グループの人数が4、5人のため自分が考えなくても他の生徒の意見で話し合いが進行してしまっているグループも見られました。 ・ くじびきで発表の場を決めるのはなぜか。 ・ $3x-2=7$の解決の手だては、なぜはじめに両辺から2を引くのか、なぜはじめに$+3$のか話し合われていない。 ・ $x-4=2$ ・ $x+4+6=2+4$と書いている生徒がいる。等式の意味が理解できていない、こういう個に対応していない。練習問題の解き方にこそ本時の評価がかかっている。 				

※ 点線部より下が小学校の先生方の意見。

《国語科の共同参観授業風景》



《2年数学科学力向上タイム》

